

◆ 第60回 日立市民音楽祭開催

日立市民音楽連盟主催の「第60回 日立市民音楽祭」に今年度も出演いたします。

今回の演奏曲は従来の「OPERAの合唱曲」の領域を外れ、「Musical」からの合唱曲(編曲)を演奏することにいたしました。私たちにとっても新たな領域への挑戦となります。「ひたちオペラ合唱団はこんな曲も演奏するんだ!」との印象を市民の皆さんにご披露しましょう。

また、この機会に団員の増強にも努めましょう。

(1) 日 時: 2024年11月10日(日) 10:30~17:00 (出演時刻: 未定)

(2) 場 所: 日立シビックセンター 音楽ホール

(3) 演奏曲: Musical《West Side Story》Medley より

(全体で約10分の演奏時間の曲を、6分30秒以内とする短縮版を山舘先生に編曲依頼)

◆ 「第2回 オペラでよかつぺ 歌でつなぐオペラリレーコンサート」の実施計画

「歌でつなぐオペラリレーコンサート」のプログラム(案)が下記のように、徐々に明らかになってきました。

1. 期 日: 2024年12月15日(日) 14:00開演(予定)

2. 会 場: 日立シビックセンター 音楽ホール

3. 入場料: 一般: 1,500円 25歳以下: 500円

4. 出演者: ・指揮: 豊原 奏 ・演出: 未定

・ひたちオペラ合唱団

・子どもオペラ学校卒業生 ・「オペラのコンサートに出てみよう」参加者(小~中学生)

・ソリスト(Sop, M.Sop, Ten, Bar)・・・未定

・アンサンブル(H響有志) ・劇団コミュニケーション

5. 内 容: オペレッタ《こうもり》(ハイライト)

第1幕: ・序曲 ・演劇

・三重唱「泣き泣きお別れ」

(ロザリンデ、アデーレ、アイゼンシュタイン)

第2幕: ・合唱「歌え踊れ」

・クプレ「僕は大好きさ お客を呼ぶのが」(オルロフスキー)

・余興(子どもオペラ学校卒業生)

・クプレ「侯爵様 あなたの様な方は」(アデーレ)

・余興(「オペラのコンサートに出てみよう」参加者)

・チャールダッシュ「故郷の調べよ」(ロザリンデ)

・演劇(舞踏会)

・合唱「シャンパンの歌」

・合唱「ドゥイ ドゥ」

・合唱「ワルツ」

・演劇(ロザリンデからアイゼンシュタインへネタ晴らし)

第3幕: ・合唱「フィナーレ」



「オペラのコンサートに出てみよう」
参加者者募集チラシ

今後のスケジュール

月 日	時 間	会 場 ()は予定	指揮	ピアノ	内 容
8/ 4 (日)	17:00~19:30	中小路交流センター 第4会議室	山舘	湯本	《こうもり》《West Side》練習場所注意!
8/18 (日)	17:00~19:30	大久保交流センター 4F会議室	杉原	湯本	
8/25 (日)	17:00~19:30	大久保交流センター 4F会議室	山舘	阿部	
9/ 1 (日)	17:00~19:30	大久保交流センター 4F会議室	杉原	阿部	
9/15 (日)	17:00~19:30	中小路交流センター 第4会議室	山舘	湯本	練習場所注意!
9/29 (日)	17:00~19:30	大久保交流センター 4F会議室	杉原	阿部	
10/ 6 (日)	17:00~19:30	(大久保交流センター 4F会議室)	山舘	阿部	
10/13 (日)	17:00~19:30	(大久保交流センター 4F会議室)	杉原	湯本	
10/27 (日)	17:00~19:30	(大久保交流センター 4F会議室)	山舘	湯本	

私が訪ねた世界のオペラハウス 第59回

2つの小さなオペラ ～ウィーンその10～

中川 幸雄

今回訪ねたウィーンの2つの小さなオペラ(団)は、いずれも個人経営の客席5～60のオペラで Pandemic を含む最近の厳しい環境の中でも以前と変わらぬ公演を続け注目していましたが、ぜひ代表者の話を聞きたいと半年ほど前から連絡を取り合うようになりました。

LEO(Last Enjoyable Opera)はウィーン国立音大の本校裏門のすぐ近くにあります。外からビデオを撮っているとぴったりに約束の時刻にドアを開けてカメラのレンズの奥でこやかに手を振ってくれたのが Stefan さんでした。

このオペラはテノール歌手でもある Stefan さんが、元パン工場を買取って開業したもので今年で15年になるそうです。もともとの目的は「この近辺のコミュニティの活性化」で、そのために色々工夫していると。

まず小さいことがそうだし、オペラのストーリーを詳しく客に説明する。客の理解が深まれば感動も大きくなる。ワグナーを聴いて涙を流す姿を初めて見た。休憩は40～60分。普通のオペラハウスでこんなに長いのを経験したことがない。その間に客は自由に飲み物、食べ物を取り、客同士や出演者と会話する。そういうことができるような配置構造になっている。話を聞いているうちに練習が始まる中、ホールを含むそれぞれの部屋を詳しく案内してくれました。客同士の歓談が聞こえて来そうな雰囲気でした。販売用のCDを「誰も買わないんだよ」と笑いながら2枚貰ってしまいました。「ひたちオペラ合唱団」の英文資料を見せたら「えっ、日本でもカヴァレリアやっているんだ!」と。今回は都合でオペラ鑑賞も観客との歓談も実現しなかったけれど、次の機会にはぜひその仲間に入れてもらおうと心に決めました。

もう1か所はウィーン中心部 Peter 教会地下の Krypta Oper。だいぶ前に本欄でも紹介しましたが、今回はじっくり話を聞こうと。

代表者は元バレリーナの Dorothee さん。前回設立目的を聞いたときは「若い歌手に機会を与えるため」ということで、多分その目的もあったのかも知れませんが今回のとうとうとした説明によると・・・

「自分の母親はソプラノ歌手で、小さいころから母親についてよく練習に行き、舞台上で聞いていた。ある日客席で聞く機会があり、その違いに驚いた。オペラの観客には舞台に非常に近いところで聞いてもらうものだ。エネルギーが違う、感動が違う」。また演じる仲間との関係も大切だ。家族同様の付き合いをしている。Pandemic はなんとか生き延びたが100人いた仲間は1/3になってしまった。苦しい思いだった。舞台上から客に詳細な物語を説明する。これは非常に大切なことだ。このオペラを開業したとき仲間から「立派なオペラが沢山あるウィーンでやっていける訳がない」と言われたけれど、毎年160公演。もう10年もやっている、と胸を張りました。今夜の《NORMA》は聞く予定はなかったのだけれど、特別席を準備してあるからと説得され、予定を変更して聴かせてもらいました。確かに席は舞台上=Podium に並ぶ2つだけの席。終演後は舞台に出演者全員を集めてくれたの記念写真まで。大感激でした。



ウィーン国立音楽大学隣接の
LEO(Last Enjoyable Opera)



LEO 代表 テノール歌手
Stefan さんと



Krypta Opera 代表 Dorothee さん
(右端)、及び《Norma》出演者と

翔歌碧空

8月、葉月(はづき)。August (英)、Agosto (伊)。現在の暦では8月は夏真っ盛り。地球の温暖化も進んで、「秋の気配」など微塵もないが、旧暦では秋の真ん中である▼そのため、8月の呼び名には「秋」を感じさせる言葉が多い。「葉落ち月(はおちづき)」「穂張り月(ほはりづき)」「初来月(はつきづき)」「月見月(つきみづき)」「木染月(こぞめづき)」「秋風月(あきかぜづき)」「紅染月(べにぞめづき)」「雁来月(かりくづき)」などがあるそうだ。いずれも秋らしい名前で、日本人の心の豊かさが忍ばれる▼月の満ち欠けを根拠とした「旧暦(太陰暦)」と太陽の動きを基準にした「新暦(太陽暦)」の違いは如何ともしがたいのであろうが、情緒豊かな旧暦の良さを今の暦に持ち込めないものだろうかと思ってしまうのは、歳のせいかな? ▼「誰かさんが、誰かさんが、誰かさんが見つけた。小さい秋、小さい秋、小さい秋みつけた。目隠し鬼さん 手の鳴る方へ……(サトウ ハチロウ) (Hm)」